

教育に関する事務の点検・評価報告書

(令和6年度実施事業)

令和7年9月
白石市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条
第1項の規定により別紙のとおり報告します。

令和7年9月3日

白石市教育委員会

教育長 半 沢 芳 典

令和6年度白石市教育方針と重点取組

白石市教育方針

教育基本法に基づき、本市の幼児・児童・生徒に生きる力（確かな学力・豊かな心・健やかな体）を育成するとともに、一人一人の生涯にわたる学習の充実と家庭や地域社会の教育力の高揚を図り、さらに伝統文化の尊重や誇りをもって生きる市民を育成し、「人と地域が輝き、ともに新しい価値を創造するまち しろいし」の実現を期する。

○重点取組

基本方向1 夢や志をかなえる力の育成

- ① 全国学力・学習状況調査の平均正答率を全国平均以上にすることを旨とした学習指導の改善、充実と家庭学習改善及び非認知能力の育成
- ② 学びの多様化学校の充実と教育支援センターの有効活用
- ③ 不登校対策の充実（「魅力ある行きたくなる学校づくり」の横展開）
- ④ 学校の特色やp4cを生かした教育課程の編成と実施
- ⑤ 教育課程特例校（英語特区）を生かした英語教育の充実とコミュニケーション力の向上
- ⑥ SDGs（持続可能な開発目標）を達成しようとする児童生徒を育成するためのESD教育の推進
- ⑦ 1人1台端末（GIGAスクール）環境を生かした授業でのICT・AIドリル活用の充実及び家庭学習での積極的な利用
- ⑧ 幼稚園、保育園におけるp4cや英語教育、暗唱活動を取り入れた幼児教育・保育の充実
- ⑨ 暗唱読本を取り入れた教育活動の充実
- ⑩ 幼稚園、保育園、小中学校連携の取組を通じた架け橋期のカリキュラムの充実と改善

基本方向2 豊かな人間性や社会性、健やかな体の育成

- ① 発達の段階と各学校の特色を生かした志教育の実践
- ② 保護者と連携した望ましい生活習慣の確立

- ③ 市の図書館と連携した読書活動の推進
- ④ 中学校における部活動の更なる改善（部活動の地域移行の推進等）

基本方向３ 障がいのある子どもへのきめ細やかな教育の推進

- ① 個の実態に応じた多様な学びの環境（通常の学級、通級による指導、特別支援学級等）の整備
- ② 教育支援委員会や関係機関、コーディネーターによるサポート体制の充実

基本方向４ 信頼され魅力ある教育環境づくり

- ① 子どもの安全安心確保のための学校安全の充実と安全・防災教育の確実な実施
- ② 「幼児教育保育のあり方」答申及び「小中学校教育のあり方」答申を踏まえた教育環境の検討
- ③ 教育ＤＸの推進及び白石市立小中学校情報セキュリティ対策基準の遵守徹底

基本方向５ 生涯にわたって成長するための学習・スポーツの支援

- ① 生涯学習の推進とスポーツ環境の充実
- ② 地区公民館職員としてのスキルを高める研修機会等の充実
- ③ 「総合型地域スポーツクラブ」の活動支援
- ④ 市民のニーズに応える図書館サービス（電子図書館等）の工夫

基本方向６ 地域みんなで未来を担う子どもを育む

- ① 地域学校協働活動への理解と地域参画の促進
- ② 社会体験・自然体験・世代間交流を取り入れたプログラムの充実によるシビックプライドの醸成

基本方向７ 歴史遺産・伝統文化の継承と活用の推進

- ① 歴史遺産・伝統文化の記録化と活用及び情報発信の推進
- ② 博物館の早期建設に向けた資料収集、資料整理、教育普及活動の実施
- ③ 文化芸術団体・文化財関連団体の育成と活動支援

令和6年度 白石市教育施策

幼児教育・保育の充実

1 幼児教育・保育の充実

- 一人一人の幼児が伸び伸びと活動し、豊かな体験が得られる環境をとおして行う教育に努め、幼児期の特性に応じた指導を推進する。
- 幼児を取り巻く環境の変化を踏まえ、家庭や地域と連携しながら集団活動の中で基本的な生活習慣の形成を図り、善悪の判断と道徳性を養い、生きる力の基礎となる社会性や協同性の芽生えを培う。
- 周囲の環境（物的環境、人的環境、自然環境）に主体的にかかわる体験をとおして、心豊かな幼児の育成を図る。
- 幼稚園と保育園及び小学校（低学年）間の連携と相互理解を深めながら、子育て支援体制づくりを推進し、保・幼・小連携推進委員会の一層の充実を図る。
- 「幼保小架け橋プログラム事業」の取組を通してアプローチカリキュラム及びスタートカリキュラムの実施時期及び内容を見直し、その活用を図り、保・幼・小相互の円滑な接続と教育の質の向上を図る。
- 預かり保育・延長保育の実施により、園児の心身の健全な発達を図るとともに保護者の子育てを支援する。
- 子どもの人権を尊重した質の高い教育・保育を提供する。

学校教育の充実

1 創意ある教育課程の編成と実施による「特色ある学校づくり」の推進

（1）創意ある教育課程の編成

- 市内の特色や2学期制の利点を生かし、各学校の実態に即した教育課程の編成と実施に努める。
- 小・中学校の連携を図り、接続を意識した年間指導計画の作成に努める。
- p4cを生かした教育課程の編成と実践に努める。
- 児童・生徒に求められる資質・能力を地域社会と共有し、社会に開かれた教育課程の編成に努める。
- 1人1台端末環境を有効に活用した教育活動の充実に努める。
- 暗唱読本を取り入れた教育活動の充実に努める。

（2）志教育の推進

- 教育活動のさまざまな場面で、人間として、社会人として、市民としての在り方や生き方、そして誇りを考えさせる場を意図的に設定する。
- 発達段階に応じた勤労観や社会性を身に付けさせ、自らの生き方について主体的に探求していく力を伸ばす。

（3）学習指導の充実

- 児童・生徒の個性や能力及び適性等を重視した学ぶ側に立つ授業づくりに努め、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を図る。

- 児童・生徒に基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりに努める。
- 「白石市学力向上グランドデザイン」に則り、児童・生徒一人一人に確かな学力を定着させるPDCAサイクルを踏まえた学力向上策を継続・推進する。
- 学力・学習状況調査の結果やICT（ＡＩドリル）等を活用した授業改善により、つまずき解消の取組を図る。
- 今日的な課題や地域、児童・生徒の実態を踏まえ、育てたい力を明確にした総合的な学習の時間の改善に努める。
- 教育課程特例校（英語特区）の指定を受け、本市独自の教育課程を生かした英語教育の充実を図る。
- 中学校区を単位とした小・中学校協働による授業づくりをとおして、課題改善に努めるとともに、知的好奇心を高め、学習意欲の高揚を図る。
- 課題意識をもって計画的・継続的に家庭学習に取り組むことができるように発達段階に応じた指導の工夫を図る。
- 児童・生徒の能力・適性を多面的に把握し、適切な進路指導を進める。

（４）学校体育・学校保健の充実

- 生涯にわたり健康で活力ある生活が送れるよう、健康の保持増進と体力・運動能力の向上を図る。
- 感染症等の情報に敏速に対応し、感染防止と罹患者への適切な指導に努める。

（５）学校給食の充実と食育の推進

- 地場産品を食材とした学校給食の充実を図り、安全で安心な給食を提供する。
- 衛生管理水準の向上に努め、施設の整備や維持管理に取り組む。
- 栄養教諭等による、学校給食をとおした指導を行い、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせる。
- 「食物アレルギー対応ガイドライン」に基づき、食物アレルギーを正しく理解し、学校全体で共通理解を図り、適切な対応を行う。

（６）国際理解教育、姉妹都市交流の推進

- 外国語指導助手（ＡＬＴ）の効果的活用や小・中学校との効果的連携をとおして、児童・生徒に国際的な視野と感覚及び英語による実践的コミュニケーション力を身に付けさせる。
- 国内外姉妹都市等との児童・生徒交流活動の推進を図り、相互理解と友好を深める。

（７）情報教育の推進

- 発達段階に応じて、言語能力、情報活用能力（情報を主体的に収集・判断・処理・編集・創造・表現し、発信・伝達できる能力）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を教科横断的に育成する。
- 「第２期白石市学校教育情報化推進計画」に基づき、児童・生徒の情報活用能力を、各教科の特質に応じて適切な学習場面で育成する。
- 各教科において、コンピュータやインターネット等の情報手段を主体的に活用し、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力の育成を図る。

（８）環境教育の推進

- 省エネルギー活動やリサイクル活動、自然愛護などの実践を計画的に行い、よりよい環境づく

りに取り組む態度の育成に努める。

○太陽光発電システムを利用して、省エネルギー、省 CO2 の効果や仕組み等を体感させ、環境教育の推進を図る。

○ユネスコスクール推進校として、世界共通の新しいものさしである SDGs（持続可能な開発目標）の価値を全教育活動に取り入れるよう努める。

（９）福祉・人権教育の推進

○全教職員の共通理解のもとに福祉・人権教育推進のための校内体制を充実させ、家庭や地域・関連機関との連携を図る。

○共生や福祉の心の大切さを理解させ、特別活動等をとおして態度や実践力の育成に努める。

（１０）文字・活字文化の振興

○活字に触れる機会を増やし、児童・生徒の活字文化の理解と読書活動の推進を図る。

（１１）ふるさと教育の推進

○地域の文化財や史跡等を学ぶ活動をとおして、積極的に市内外の文化や伝統に親しむ児童・生徒を育てる。

○学校教育の活動全体をとおして、白石市と地元地区を知り、ふるさとを愛し、その発展に寄与する児童・生徒を育てる。

（１２）小規模校等の充実

○小原小・中学校においては、小中一貫校のメリットを生かし、特色ある教育活動を展開する。

○自然豊かな小規模校において、きめ細やかな個別指導による学力向上を図るとともに、協働的な学びに十分配慮して地域の特色を生かした活動による豊かな人間性を養う。

○白石きぼう学園については、不登校児童生徒の特性にかんがみ、個別な学びで基礎学力を保障するとともに学校内外での体験活動を通して社会性の醸成を図る。

（１３）特別支援教育の充実

○就学先を決定するにあたっては、就学相談等をとおして様々な情報提供を行い、実態に応じた適切な教育支援に努める。

○保・幼・小・中・支援校の連携をとおして支援の充実に努める。

○特別支援教育コーディネーターを核として他の機関との連携のもと、相談活動をとおして特別な支援を必要とする児童・生徒の理解を深めるとともに、「すこやかファイル」の啓発と活用に努める。

○障がいの種類や程度に応じた合理的配慮に努め、「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」の作成と実践、並びに教育のユニバーサルデザイン化を推進し、児童・生徒のさまざまな教育的ニーズに対応する。

○教育支援ソフトを導入し、特別支援教育の全体的な質の向上を図る。

○障がいのある児童・生徒と障がいのない児童・生徒が共に学ぶ場や自らの可能性を最大限に伸ばすことのできる学びの場など、多様な学びの場の充実を図る。

２ 豊かな人間性を育む教育の推進

（１）誰一人取り残されない教育の推進

○不登校の児童・生徒を支援するため、教育支援センターや学びの多様化学校、仙南けやき教室

などの連携をととして、学びの保障に努める。

- 「魅力ある行きたくなる学校づくり」の横展開など不登校を生じさせない取組を含めた不登校対策の充実を図る。

（２）道徳教育の推進

- 「特別の教科 道徳」において、多面的・多角的に深く考えたり、議論したりする授業展開の工夫に努める。
- p4cの理念を取り入れた授業により、安心をベースとした対話ができるようにする。
- 自然とのふれあいや社会奉仕、福祉などの豊かな体験活動を積極的に取り入れる。
- 美しいものや崇高なものに感動し、真・善・美に触れることのできる多様な体験活動を推進する。

（３）生徒指導の充実

- 児童・生徒の自己存在感や自己有用感を育み、問題行動等の未然防止に努める。
- 支持的で創造的な学級集団をつくり、共感的な人間関係の育成に努める。
- 児童・生徒の自己選択・自己決定を促す授業づくりに努める。
- 児童・生徒がお互いの個性や多様性を認め合い、安心して学校生活を送れるような風土の醸成に努める。
- 児童・生徒の悩みや不安の早期発見に努め、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、教育支援センタースーパーバイザー並びに関係諸機関との連携を密にした相談・支援体制を充実させる。
- 善悪の判断を、機会を逃さず、適切かつ確実に指導する。

（４）情報モラルの育成

- 地域・家庭・学校が一体となって児童・生徒を「ネット犯罪」から守るために、地域・家庭等に対して、ネットを通じた有害情報や対策等について、様々な機会をととして啓発を図る。
- 児童・生徒の発達段階及び情報機器の活用に応じて、情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を、各教科の指導の中で情報活用能力の学習と合わせて指導する。

３ 学校・家庭・地域が連携した「開かれた学校づくり」の推進

（１）学校経営の充実

- 保護者や地域住民に対して学校の教育目標や方針などを説明しながら理解と協力を得、学校及び地域の自然・文化・人材を活かした学校づくりに努める。

（２）家庭教育の充実

- 「白石市子どもを育てるヒント集（小学校編・中学校編）」の活用、「家庭の日」の促進、「青少年健全育成市民のつどい」への参加の奨励を図り、家庭教育の在り方に関する活動の機会を充実させる。
- 学力向上には、家庭教育も重要であることを呼びかけ、学校と家庭とが両輪となって取り組むよう働き掛ける。
- 安心感を持たせる家庭環境づくりや非認知能力（協調性、自制心、やり抜く力等）向上の必要性等について情報発信し、家庭の教育力を高めるよう働き掛ける。

（３）いじめ等防止対策の推進

- 「白石市いじめ防止基本方針」を徹底し、いじめの未然防止や問題行動の早期発見と早期対応

に努めるとともに、児童・生徒の活動をとおして、いじめ根絶の意識を高める。

○「白石市いじめ防止基本方針」で定めた7月と12月の「いじめ防止月間」に加え、「白石市いじめ防止大会」で採択された、「いじめゼロの日」（毎月10日）をとおして、いじめの未然防止やいじめ根絶の推進を図る。

○幼児期における「いじめ」態様の早期把握に努め、適切な対応を図る。

（4）安全教育の徹底

○児童・生徒の安全を第一に考え、「学校安全委員会」の活用をはじめとした管理体制の整備に努める。

○学校・家庭・地域が連携し、学校安全、防犯、防災、交通安全等の意識を高めるために自ら考える教育活動を取り入れる。

○危険箇所や通学路などの安全点検を組織的、計画的に行う。特に東日本大震災を教訓とし災害時の対応等、防災教育の充実を図り、実効性のある防災体制づくりを行う。（「学校・地域防災連絡協議会」の活用）

○登下校時の安全を図るため、スクールパトロール隊や通学路巡視員等と協力し、児童・生徒の安全確保の支援に努める。

○PSC（Police Student Cooperation）パトロールなどの取組を活かして、児童・生徒の地域安全への意識を高める。

4 学校力向上を図る研修の充実

（1）「学校力」向上を図る研修の充実

○管理職の自覚と覚悟を促し、児童・生徒管理、教職員管理、教育課程管理、施設整備管理、学校事務管理を強化する。

○各校の実態に応じて、意識的なOJTを実施する。

○組織マネジメントや危機管理等の研修を深め、組織として機能する学校づくりに努める。

（2）「教師力」向上を図る研修の充実

○学校の実態に応じて、学校毎に「教職への情熱」「授業力」「学級経営力」「生徒指導力」「総合的な人間力」等のバランスのとれた研修に努める。

○白石市の課題解決に向けた具体的な研修に努める。

（3）情報教育研修の充実

○「第2期白石市学校教育情報化推進計画」に基づき、教職員のICT（情報や通信に関する技術の総称）活用指導力を向上させるための研修を充実させる。

○情報活用能力と学力の関係を理解し、児童・生徒の知識・技術の確実な定着とともに、思考力・判断力・表現力を高めるための研修の充実を図る。

○校務用コンピュータを活用した校務の効率化を進めるとともに、情報管理の徹底を図る。

○1人1台端末等を使用した授業づくりのため、指導主事を有効に活用して、教員の資質向上を図る。

（4）心身の健康管理

○市民の期待と信頼に応え、創意と活力に満ちた教育活動が展開できるよう、文部科学省報告の「学校現場における業務改善のためのガイドライン」及び「学校現場における業務の適正化に向けて」を活用し、教職員の健康増進と福利厚生の実施に努める。

社会教育の充実

1 社会教育推進体制の充実

(1) 市民の生涯の成長を促す社会教育の推進

- 公民館等の社会教育施設を拠点に、いつでも誰でも気軽に集い学び合うことや、個人の自己実現に向けた学習を支援する。
- 各種団体や地域住民等との連携強化を図り、市民の学習成果が地域等で生かせるような場のコーディネートを行う。
- 人口減少や少子高齢化の中でも、地域が話し合いと学び合いを重ねてより良い地域づくりを目指す力の向上を目指す。
- コロナ禍などにおける新たな学習機会として、様々な世代がリモートで繋がる機会や、そのためのスキルを学ぶ機会を設ける。

(2) 地区公民館の社会教育の推進

- 指定管理者制度により地域主導で運営されている地区公民館においても、市民の生涯を通じた成長への要求に応えられるよう、地域の特色を生かした公民館事業や社会教育の推進、共同学習を支援する。
- 公民館職員としての専門スキルの向上を支援するため、研修機会の確保、情報提供、地区公民館同士の定期的な情報交換の場を設ける。
- 市職員が研修会等に積極的に参加するなどして専門スキルを高め、また、地域に出向いて地域の特性や強みを理解しながら、地区公民館事業運営への指導・助言を行う。

(3) 地域学校協働活動の推進

- 地域学校協働本部を中心に、地域学校協働活動推進員、協働教育担当者、地域の方々などを対象にした研修会の開催や情報共有の機会を設け、活動への理解の促進と家庭・地域・学校が丸となって取り組みの充実を図る。
- 学校支援を通して、充実した学校教育を支援する。
- 放課後子ども教室を実施し、子どもたちの安全・安心な放課後の居場所の確保と異年齢交流による子どもの自主性と創造性を育む。
- 地域学校協働活動の取り組みを通して、地域住民や各種団体の主体性や自主性を育み、地域全体の教育力の向上と地域の活性化を図る。
- 家庭教育支援チームなどと連携し、宮城県版「親の学びのプログラム」を活用した出前講座の実施等による家庭教育事業を推進し、全ての親が安心して子育てや家庭教育が行えるように支援する。

(4) 青少年活動の推進

- 社会体験・自然体験・世代間交流を取り入れた充実したプログラムによるわんぱく教室を開催することにより、子どもたちの健全な育成と、ジュニア・リーダーの加入に繋げる。
- 次世代を担う青少年がたくましく思いやりのある人間に成長することを支援し、将来の担い手として、地域をつくる社会の一員になることを目指して、ジュニア・リーダーの育成と活用を推進する。
- 未来を担う子どもたちが、ふるさと「白石」に誇りと愛着の醸成ができるよう、楽しみながら地域に興味や関心が持てる機会の拡充に努める。

(5) 読書活動の推進

- 読書をとおして心の豊かさを育むとともに豊かな人生を送ることができるよう、児童・生徒をはじめとした市民が読書に親しむことができる環境の整備に努める。

2 文化芸術活動の振興と歴史遺産・伝統文化の継承・活用体制の充実

(1) 文化芸術活動の推進

- 地域の歴史・風土等を反映した個性豊かなまちづくりを推進するため、市民の多様な文化芸術活動や普及活動を支援する。
- 優れた文化芸術に触れる機会を確保し、古典芸能伝承の館碧水園など文化施設の積極的活用を推進する。

(2) 歴史遺産・伝統文化の継承と活用の推進

- 歴史遺産・伝統文化の散逸と滅失を防ぎ、広く市民の理解を得るよう啓発するため、資料を記録化し、各種媒体を用いて情報発信をする。
- 歴史遺産や伝統文化を展示・収集・保管する博物館の早期建設に向け、資料の所在調査や普及活動を実施する。
- 他の機関・団体等と連携しながら、歴史遺産等の価値を理解し、魅力を発信する人材を育成する。

3 生涯にわたるスポーツ活動の推進

(1) 生涯スポーツの推進

- いつまでも健康で明るく活力に満ちた生活を送ることができる「市民総スポーツ社会」の実現に向けて、「だれでも・いつでも・どこでも・いつまでも」気軽にスポーツを楽しむことができるスポーツ環境の充実に努める。
- スポーツ推進委員や学校体育と連携し、各種大会やスポーツ教室等の開催を通じ、地域や学校に根ざしたコミュニティスポーツを積極的に推進し、市民の健康増進と体力・運動能力の向上を図る。
- 部活動の地域移行に向けた検討を進める。

(2) 総合型地域スポーツクラブの活動支援

- 地域住民のスポーツ活動をささえ、スポーツを通じた地域コミュニティを構築するための活動拠点となる「総合型地域スポーツクラブ」の活動支援を行う。

(3) スポーツ団体及び指導者の育成強化とスポーツ人口の拡大

- スポーツ協会やスポーツ少年団を中心とするスポーツ団体及び指導者の育成強化に努め、スポーツ人口の拡大を図る。

4 図書館サービスの充実

- 生涯に渡る学びの支援の場として、また地域の情報拠点として、基本的サービスである資料提供やレファレンスサービスの充実を図る。
- 郷土資料や行政資料を収集・公開し、郷土史研究や地域課題解決に貢献するよう努める。
- 「第四次白石市子ども読書活動推進計画」に沿い、子どもの自主的な読書活動の推進のため家庭や地域、学校図書館との連携を深め、子どもの読書機会の提供と読書環境の充実、読書活動に対する理解の促進を図る。

教育環境の整備

1 施設設備や教具等の充実と効果的な活用

(1) 施設設備の整備

○安全な施設設備の整備を図る。

(2) 施設設備の適正管理

○さまざまな災害に備えた施設設備の充実に努める。

○環境負荷の軽減に配慮した施設設備の適正な管理を図る。

(3) 子どもの特性に合わせた教育環境の整備

○ＩＣＴ機器の利活用のための教育環境の整備を図る。

○障がいのある児童・生徒の実態を考慮した施設・設備の整備を図る。

(4) 緑化・美化運動による教育環境の整備

○各学校の環境を活かした個性ある緑化・美化による教育環境の整備促進を図る。

2 危機管理体制の強化

(1) 危機管理体制の強化と学校事故再発防止に向けた安全教育の徹底

○東日本大震災や令和元年東日本台風、白石第一小学校事故を教訓として地域の実情に沿って見直した学校安全マニュアルにより、防災教育を強化する。

○不審者侵入や自然災害等に対応した児童・生徒の安全確保と個人情報管理等の危機管理体制の強化を図る。

○各学校の状況に応じた避難訓練と日常的な指導により、児童・生徒の危機予測能力及び危機回避能力を養う。

○「しろいし安心メール」を活用し、児童・生徒の安全や安心に努める。

(2) 情報教育に係る設備等の整備充実

○学校コンピュータ管理基準の徹底及び個人情報の管理に努める。

○1人1台端末、教師用端末及び関連機器について、白石市立小中学校情報セキュリティ対策基準に基づいた保管及び管理を徹底する。

○学校ホームページの積極的な運用を図り、地域及び家庭に学校の取り組みや子どもたちの様子について伝えるよう努める。

基本事業	教育環境の整備	担当課	学校管理課施設係
事業名	学校施設環境整備事業		
重点施策 (白石市の教育より)	1-(1)(2) 施設設備や教具等の充実と効果的な活用		
事業の目的・目標	より良い環境で教育を受けることができるよう、学校施設及び設備の適切な維持管理を行い教育環境の充実を図る。		
1. 令和6年度予算額	13, 953千円	2. 令和5年度決算額	12, 598千円
3. 令和6年度の 事業内容	○児童生徒の安全安心を最優先に考え、施設小・中学校の定期的な保守点検及び修繕等により、維持管理を行う。 (当初予算計上の資料として、各学校に前年度夏に施設の修繕要望調査を行っている。限られた財源であるので、必要性・緊急性を判断しながら業者から見積書を徴収し、当初予算に計上している。また、随時発生する修繕要望についても、必要性・緊急性を勘案しながら、補正予算により対応している。) ○令和3年4月27日に発生した白石第一小学校防球ネット支柱折損死傷事故を受けて、再発防止に取り組む。		
4. 事業の実績	○当初予算(修繕費)及び補正予算により必要性・緊急性などを勘案して163件の修繕を行った。(当初予算のうち、教具等の簡易な修繕は、各学校に配当している予算にて対応) ○白石第一小学校防球ネット支柱折損死傷事故を受けて、定期的に専門的な安全点検を行う計画を作成し、本年度より一般社団法人宮城県建築士会白石刈田支部の協力による点検や市技術職員による点検を行った。		
5. 事業の成果・ 課題等	【成果】 ○必要性・緊急性を勘案しての修繕については、全て完了することができた。 ○学校施設等安全点検については、専門的な安全点検を行うとともに、市教委と教職員が合同で安全点検を行い、安全点検方法について適切かつ具体的な知識を身に付け、各学校における安全点検の充実を図った。 【課題】 施設設備の経年劣化による老朽化が進んでいる。屋根の雨漏りや水道管及びプールの漏水、設備機器などの故障が発生した場合、出来る限り速やかに対応はしているが、予防的な修繕にまで十分には手が回らない。急激に少子化が進んでいる現状を踏まえ、今後の学校教育、保育について検討段階にあるが、児童生徒の安全安心を最優先に考え、「白石市学校教育施設個別施設計画(令和3年3月策定)」を考慮しつつ施設の維持管理や長寿命化を図って行く必要がある。		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	・資材価格高騰の中、修繕等の実施については苦労があったと推察する。限られた財源を必要性、緊急性を勘案しながら、何よりも児童生徒の安全を優先し、必要な修繕の全てが完了していること、また、学校安全点検においても白石市は、他の自治体をリードする取組が継続実施されていることはすばらしいことである。 課題として予防的な修繕にまで手が回らないとされている点は、今後の大きな課題であるので、安全・安心が担保されるように引き続き、丁寧な対応をお願いしたい。 ・児童生徒の安全・安心を最優先に考えている姿勢、また、必要性・緊急性を勘案し、予定された修繕は全て完了できたことはすばらしいと感じた。予算との兼ね合いもあるが、継続して取り組んで欲しい。また、白石市の安全点検は、他の自治体の模範となるものである。継続した取組をお願いしたい。		

基本事業	学校教育の充実	担当課	学校管理課
事業名	学力向上プロジェクト事業		
重点施策 (白石市の教育より)	創意ある教育課程の編成と実施による「特色ある学校づくり」の推進 (3)学習指導の充実		
事業の目的・目標	○学力向上を図り、本市の将来を担う子どもたちの「生きる力」を高めることを目指す。 ・学力向上グランドデザインを踏まえた実践を通して、児童・生徒の学力の向上を図る。 ・学力・学習状況調査等を踏まえ、その課題を明確にして学習指導等に生かす。		
1. 令和6年度予算額	13,407千円	2. 令和5年度決算額	8,430千円
3. 令和6年度の事業内容	市独自の学力調査を実施し指導改善に生かしていくほか、令和元年度から3年間にわたり受託した宮城県の「学力向上マネジメント支援事業」を継続・発展させた本市「学力向上グランドデザイン」の取組を基に、学力向上におけるPDCAサイクルを推進し、学力向上を図っていく。		
4. 事業の実績	【白石市学力調査の実施】 埼玉県との共同実施による白石市学力・学習状況調査を5月から6月にかけて実施したほか、標準学力調査を4月には小学2年、3年生を対象に、12月には小・中学校全学年において実施した。		
	【教員研修会の実施】 4月22日：学力向上に係る新任管理職等研修会 9月4日：算数科授業改善研修会 11月6日：教育アドバイザーによる学力向上研修会① 11月7日・8日：教育アドバイザーによる学力向上研修会②(7日：中学校、8日：小学校) ※9～12月：中学校区授業参観研修会(市内全小・中学校1回ずつ実施) ※通年：白石市教育委員会指導主事派遣事業(要請があった学校対象) ※年5回：学力向上推進委員会		
	【各種検定補助、中学校校内実力テスト実施に対する補助】 ・漢字検定：3回(のべ318人)、数学検定：5回(のべ191人)、英語検定：3回(のべ267人) ・中学校実力テスト(1年：2回、2年：3回、3年：5回)		
5. 事業の成果・課題等	【成果】 ・全国学力学習状況調査の結果は改善傾向にあり、小学校・中学校ともに全国平均を上回る学校もみられた。 ・これまでの取組から、各校において自主的、積極的な取組内容の工夫改善、定着が見られ、その主体性が学力の向上・改善につながったと考える。特に、結果分析を基に各校での学習指導の改善及び児童生徒一人一人の「つまずき解消」の手立ての構築・実施など、学力向上におけるR-PDCAサイクルが確実に実施されていた(教師意識、学力向上推進委員会議より)。 ・非認知能力と学力の関係について研修を通して全市教員の理解が進み、その視点で学力向上を推進していくという意識の高まりは成果と捉えている。特に、学力調査の結果から学力の伸びと非認知能力の変容を基に、授業改善及び個に応じた指導の充実につなげることができた。 ・年度当初における学力向上に係る新任管理職等研修会の実施により、全市内小中学校が共通理解のもと取組が推進されたことは学力向上の一要因と考える。 ・各種検定補助について、過去に受検している児童生徒が再度、受検に申し込むことが認められ、このことは学びへの意欲、挑戦意欲の向上と捉えられる。また、保護者の経済的負担の軽減にもつながった。 【課題】 ・各学力調査結果と分析及び令和2年度(中学校は令和3年度)より全面实施となった学習指導要領、令和の日本型学校教育を踏まえた授業(個別最適な学び、協働的な学び、ICTの活用等)を一層展開していくことが必要であり、これまでの授業に対する児童生徒・教師の意識や授業内容について大きく転換を図ることを主たる課題・改善としていく。 ・学力向上に相関すると示されている非認知能力面の授業内での具体的対策を更に充実させ、自己効力感、学びに向かう姿勢等の向上を図り、学力向上を推進していく。		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	・学力向上におけるR-PDCAサイクルが着実に実施されている。全国学力学習状況調査の結果を分析し、授業改善、さらには学校経営の一助として取り組んでいくことは、簡単なことではない。各学校が確実に実施するという学校文化が醸成されていると感じた。 ・PDCAについて、白石市の場合は「リサーチ」の「R」が先頭に付いている。しっかりリサーチをした上でのPDCAサイクルはすばらしいと感じた。また、実績の中で「学力向上に係る新任管理職等研修会」を4月に実施している。前年から1カ月前倒しで実施した取組も評価できる点である。さらに学力向上のため、学校、家庭だけではなく、市教育委員会においてもプロジェクトとして取り組んでいることはすばらしいことである。		

基本事業	学校教育の充実	担当課	学校管理課
事業名	国際理解教育推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	創意ある教育課程の編成と実施による「特色ある学校づくり」の推進(6)国際理解教育		
事業の目的・目標	児童生徒に国際的な視野と感覚及び英語による実践的コミュニケーション力を身に付けさせる。		
1. 令和6年度予算額	31,698千円	2. 令和5年度決算額	27,165千円
3. 令和6年度の 事業内容	令和3年度より文部科学省の教育課程特例校(通称:英語特区)の指定を受け、特別な教育課程の編成を行い、小学校低学年での外国語活動及び中学校1・2年生でのコミュニケーションを重視した活動である「しろいしイングリッシュ」を実施している。 令和6年度は、令和5年度と同様に派遣会社より5名、市直接雇用1名の6名体制で市内全小・中学校及び幼稚園・保育園(市立・私立)にALTを派遣し、外国語・国際理解教育の強化を図った。		
4. 事業の実績	各学校のALT年間配置日数(指導時数)【令和5年度】 白一小167(489) 白二小157(528) 越河小45(202) 大平小78(248) 大鷹沢小69(241) 白川小71(218) 福岡小51(211) 深谷小45(148) 小原小中84(285) 白石中209(666) 福岡中115(188) 東中205(718) 白南小中学校3(8) 第二幼20(40) (市立・私立)保育園・認定こども園25(27) 合計1,344(4,217)		
	各学校のALT年間配置日数(指導時数)【令和6年度】 白一小156(439) 白二小162(533) 越河小41(185) 大平小70(235) 大鷹沢小73(198) 白川小65(209) 福岡小81(237) 深谷小42(187) 小原小中81(252) 白石中202(631) 福岡中102(177) 東中199(713) 白南小中学校1(2) 第二幼10(20) (市立・私立)保育園・認定こども園47(56) 合計1,332(4,074)		
5. 事業の成果・ 課題等	【成果】 教育課程特例校として、市内小中学校の英語担当教員による英語推進委員会を6年度も設置し、中学校区単位の研修会(各区2回)を開催した。また、鬼小十郎まつりにおける小中学生英語ボランティア活動に参加した児童生徒の増加やオンラインで海外の同年代の子供たちとの交流の実施など英語を実践的に活用する機会の増加も見られた。 また、ALT6名体制で学校等への派遣を実施したことにより、ALTを授業だけではなく教育諸活動で効果的に活用することができた。幼稚園や保育園へのALT派遣も計画的かつ積極的に実施し、小学校就学前からの途切れない英語教育の推進を図ることができた。 令和6年12月の市学力調査では、中学校の英語科においては、学年が上がるにつれて全国平均との差が縮まるなど改善傾向がみられる。 【課題】 既存の外国語活動に加えて、教育課程特例校としての取り組みをより一層推進するため、教職員の情報交換と研修の充実に取り組む。また、市教委・学校等・ALT派遣会社との調整・連携を強化してALTの指導時数を増やすとともに、効果的な活用を推進する。今後も、外国語・国際理解教育の充実に向けた施策を検討し、進めていく必要がある。		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	・現在は、世界の誰とでもコミュニケーションを図ることができる能力が求められる状況にある。白石市の「英語特区」は時代を先取りした取組であるし、「鬼小十郎まつり」で小・中学生の英語ボランティアが活動するということはすばらしい取組であると思う。また、ALTが私立も含めて、幼稚園、保育園、認定こども園に派遣されているということは、市の取組が市内の全ての子どもたちに行きわたっていると感じた。 ・ALTが6名という人数を見て率直に、すごいと感じた。指導時数等を含めて手厚くなされていると感じる。様々な方と接することで、子どもたちが白石市を出て他の地域で活躍しても、市に戻ってきてくれればと感じた。また、鬼小十郎まつりはすばらしいイベントであり、さらに小・中学生が関わっていることで、もっと宣伝をしてもよいのではないかな。		

基本事業	生徒指導関係事業	担当課	学校管理課
事業名	生徒指導関係事業		
重点施策 (白石市の教育より)	豊かな人間性を育む教育の推進 (1)だれ一人取り残されない教育の推進 (3)生徒指導の充実 学校・家庭・地域が連携した「開かれた学校づくり」の推進 (3)いじめ等防止対策の推進		
事業の目的・目標	関係機関との連携による相談・支援体制を充実させ、不登校やいじめ、問題行動などの未然防止、早期発見・解決を図る。		
1. 令和6年度予算額	25,055千円	2. 令和5年度決算額	20,002千円
3. 令和6年度の事業内容	学びの多様化学校(白石きぼう学園)、白石市教育支援センター(子どもの心のケアハウス)、白石市青少年相談センター、仙南けやき教室、スクールソーシャルワーカー(SSW)、スクールカウンセラー(SC)の運用と活用。学び支援教室の運営。みやぎ「魅力ある・行きたくなる」学校づくり推進事業の実施。いじめ問題対策連絡協議会、いじめ防止大会の開催。		
4. 事業の実績	【令和5年度】 教育支援センター: 支援児童生徒実人数330名(小学生187名、中学生143名) (学校復帰5名、支援センター通所27名、けやき教室通所2名) 相談センター: 相談件数12件、街頭巡回指導(声がけ運動)件数69件(251名) 仙南けやき教室: 通所者9名、相談件数88件 スクールソーシャルワーカー: 支援児童生徒数52名、訪問活動回数228回 スクールカウンセラー: 相談件数 小学校児童234件、教員214件、保護者365件 相談件数 中学校生徒259件、教員41件、保護者177件 学び支援教室: 利用者数 白石二小12名、白石中13名 【令和6年度】 教育支援センター: 支援児童生徒実人数320名(小学生191名、中学生129名) (学校復帰7名、支援センター通所12名、けやき教室通所1名) 相談センター: 相談件数5件、街頭巡回指導(声がけ運動)件数77件(255名) 仙南けやき教室: 通所者7名、相談件数23件 スクールソーシャルワーカー: 支援児童生徒数40名、訪問活動回数265回 スクールカウンセラー: 相談件数 小学校児童199件、教員185件、保護者315件 相談件数 中学校生徒305件、教員73件、保護者210件 学び支援教室: 利用者数 白石二小10名、白石中23名		
5. 事業の成果・課題等	【成果】 令和6年度も、不登校やいじめ、問題行動の未然防止や早期発見・解決に向けて、各機関が様々な相談対応等を行い、課題を抱える児童生徒に積極的に関わり、寄り添った支援を行っている。教育支援センターは、市内小中学校の不登校や問題行動の状況を把握するとともに、来所及び訪問による相談や支援を行っている。SSWも、活動拠点を教育支援センターに置くことでスムーズな連携が図られ、学校や家庭の相談、要請に柔軟に対応している。また、各小中学校においても、SCによる児童生徒や家族、そして教職員の相談への対応、学び支援教室や別室を設置しての個別の支援などに当たった。開校2年目を迎えた学びの多様化学校「白石きぼう学園」は児童生徒数が増加しており、令和6年度末には35名の児童生徒が在籍するなど、学びの場の選択肢の一つとなっている。 1月に実施した「いじめ防止大会」では、多くの児童生徒が参加できる良さを生かした「オンライン」で実施し、いじめ防止に対する各学校の主体的・積極的な取り組みの情報交換の場となった。 【課題】 不登校児童生徒数は令和5年度と比較すると、小学校では減少したが中学校では微増し、依然として喫緊の課題であり、各校で「魅力ある学校づくり」を進めることが重要である。また、学校と関係機関のより強力な連携も非常に重要である。それぞれの課題に応じた見立て(アセスメント)による支援策を行うことができるよう、「教育支援センター」としての機能を有した心のケアハウスを中心とした連携体制のさらなる充実を図っていくことが求められる。		
6. 内部評価	B	A B C D	目標を上回って達成した 目標をほぼ達成した 目標をやや下回った 目標を下回った
7. 外部評価	・すばらしい取組をされている中、評価がBというのは、内部の評価基準が高くなっていると推察する。白石きぼう学園や白石市教育支援センターの運営など、登校できない児童生徒の支援の充実が図られているということは、一人ひとりの児童生徒を大切にしておりますすばらしいことであると思った。今後も同様に悩む児童生徒及び保護者に対してよりよい支援策を探っていただきたい。 ・白石きぼう学園等で学校に行きづらい児童生徒への手厚い対応がなされていると感じた。また、各学校においても様々な取組をされながら子どもたちのために力を尽くしていただいていると感じた。さらに、不登校でなくとも広く生徒指導という観点から言わせていただくと、横断歩道を渡る前、渡った後で児童生徒が車の運転手に向かって一礼をする姿は、指導がなされているなど感じている。これからも継続していただきたい。		

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課生涯学習係
事業名	地域学校協働活動推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	協働教育の推進 2-(6)-①②		
事業の目的・目標	地域と学校が連携、協働して、子ども達の成長を支え、地域を創造する活動を推進する。		
1. 令和6年度予算額	5,580千円	2. 令和5年度決算額	4,418千円
3. 令和6年度の 事業内容	家庭教育支援活動・学校教育支援活動・地域活動及び放課後子ども教室を中心とした事業の推進を図った。 ○家庭教育支援 ・市主催「親の学びプログラム」出前講座の開催 ○学校教育支援 ・学校支援ボランティア派遣・職場体験学習の支援・各種研修会の開催・広報誌の発行 ○地域活動支援 ・体験活動「わんぱく教室」の開催・白石市生涯学習フェスティバル事業の実施・「家庭の日」推進の取り組み・ジュニアリーダー研修及び派遣事業 ○放課後子ども教室 ・越河小学校・第一小学校・第二小学校で実施、第一小及び第二小については平成30年度より開設、児童クラブとの連携型及び校内交流型で運営		
4. 事業の実績	・ボランティア派遣学校数：小学校及び中学校計15校(15校)、市内幼稚園1園(市内幼稚園1園) ・年間活動延べ日数：第一小443日(245日)、第二小56日(47日)、越河小42日(21日)、大平小48日(24日)、大鷹沢小50日(63日)、白川小27日(26日)、福岡小47日(51日)、深谷小23日(33日)、小原小40日(40日)、白石南小25日(9日)、白石中13日(0日)、福岡中28日(31日)、小原中5日(3日)、東中30日(17日)、白石南中34日(9日)、第二幼稚園7日(8日) 合計905日(627日) ・家庭教育学習講座の実施数：3校(4校) ※()の数値は昨年度		
5. 事業の成果・ 課題等	【成果】 標記事業は平成24年度より国の補助事業である「協働教育プラットフォーム事業」として5年間実施し、平成30年度より「地域学校協働活動」として国の補助事業を活用し実施している。これまでの実績を踏まえ、地域活動支援では事業の周知も計られ参加者が増えている。学校教育支援ではボランティアの人手はまだまだ必要ではあるが、校外活動へのボランティア派遣依頼も増え、多くの場面で活動していただいております、放課後子ども教室・家庭教育支援は継続して実施できた。 【課題】 全国的な傾向として、少子高齢化による地域コミュニティの衰退が懸念される状況にある。そのような中でも本市では、学校と地域が連携して伝統をつなぐ試みがなされている例がある。今後も地域まちづくりの核として活動しているまちづくり協議会と協力して、伝統文化の継承等の事業と結びつける等の工夫をして事業の実施を行い、地域住民と子ども達とその保護者を結びつける活動を通じ、地域コミュニティの維持・再構築を目指していきたい。		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	・地域学校協働活動として様々な事業が推進されてきたことで、地域全体で子どもたちの成長を支えていただいていると感じている。少子高齢化によるコミュニティの衰退が懸念される状況の中で大変な苦労があると思うが、今後も継続してより一層推進していただきたい。 ・事業の実績を拝見して、多くの事業が行われ、白石市の子どもたちが様々な事業により支えていただいていると感じた。少子高齢化の進行により難しい面もあると思うが、引き続き、よろしくお願いいたします。		

事業番号 3-2

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課文化財係
事業名	史跡環境整備事業、市内遺跡発掘調査等事業		
重点施策 (白石市の教育より)	芸術文化活動の振興と文化財保護思想の普及及び保護体制の充実 2-(7)-②		
事業の目的・目標	市内に所在する文化財に説明板・標柱を設置し、地域の方や来訪者にその存在を周知するとともに、地域の文化財に対する理解を深めることを目的とする。 遺跡の発掘調査を実施することによりその状況を把握し、各種開発事業による遺跡の破壊や滅失を防ぎ、将来へ継承する。		
1. 令和6年度予算額	18,652千円	2. 令和5年度決算額	11,469千円
3. 令和6年度の事業内容	史跡環境整備事業では国の天然記念物である小原のヒダリマキガヤ説明看板と案内看板、標柱の塗り替えを実施した。 市内遺跡発掘調査等事業では、住宅建築や太陽光発電設備設置事業などの予定地内において遺跡の有無を確認するための発掘調査を実施した。		
4. 事業の実績	(令和6年度)文化財説明板および標柱の新設・塗り替え3件、発掘調査21件 (令和5年度)文化財説明板および標柱の新設・塗り替え1件、発掘調査29件		
5. 事業の成果・課題等	【成果】 史跡環境整備事業においては、風雨にさらされ文字の判読が難しくなった説明板・標柱を塗り替え、更新した。 市内遺跡発掘調査等事業では、発掘調査によって遺跡の状態が把握され、開発事業者と遺跡保護に向けて円滑な調整ができた。また、開発事業による遺跡への影響を最小限に留めることができた。 また、これまで調査してきた鷹の巣古墳群等の測量調査成果をまとめ、報告書を刊行した。 【課題】 市内に所在する文化財説明板は約300箇所あり、昭和50年代に設置した説明板は経年劣化し、定期的な塗り替え・建て替えが必要である。また、看板が設置されている文化財そのものの状況把握も課題である。 市内遺跡発掘調査等事業は、昨年に引き続きスマートICや道の駅など大規模開発事業が複数予定されており、他の開発行為に係る調査も想定されることから、能動的な調査の実施が難しい状況にあることが課題である。		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	・先人の遺業や豊富な遺跡を大切に守り、文化財の理解を深めるために看板の設置など、様々な取組をしていただき感謝します。修繕等が必要な箇所はあると思うが、今後も少しずつ取り組んでいきたい。 ・過日、テレビ番組で著名人のルーツが白石市にあったという特集を見た。改めて、白石市はとても歴史があるところだということをマスコミを通じて再認識した。文化財説明板が約300箇所とのことで管理は大変だと思うが、生涯学習という観点から考えると子どもの頃に興味がなくとも、大人になって良さがわかるというものもあるのではないかな。大変、苦勞があると思うが、引き続きできる範囲で管理をお願いしたい。		

事業番号 3-3

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課スポーツ振興係
事業名	生涯スポーツ推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	3 生涯にわたるスポーツ活動の推進		
事業の目的・目標	いつまでも健康で明るく活力に満ちた生活を送ることができる「市民総スポーツ社会」の実現に向けて、「だれでも・いつでも・どこでも・いつまでも」気軽にスポーツを楽しむことができるスポーツ環境の充実を図る。		
1. 令和6年度予算額	8,080千円	2. 令和5年度決算額	7,383千円
3. 令和6年度の事業内容	○誰でも、気軽に楽しむことができる「ニュースポーツ」の普及促進を図り、参加者相互のコミュニケーション及び体力づくりを図ることを目的に、学校体育や地区公民館、社会福祉協議会などと連携し、年間を通じニュースポーツ移動教室を開催した。 ○スポーツ推進委員と連携し、ふるさと球技大会や市民綱引き大会、しろいし蔵王高原マラソン大会を始めとした各種スポーツ大会を開催した。 ○白石市スポーツセンター管理運営業務(白石市スポーツ協会事業)及び学校施設開放業務 ○白石市グラウンド・ゴルフ場【若林弁天パーク】を活用した市民グラウンド・ゴルフ大会を開催し、生涯スポーツを通じた市民の健康維持・増進と地域活性化を図った。		
4. 事業の実績	○ニュースポーツ移動教室 (R6実績)計8回開催(うち小学校3回、地区公民館等5回)、参加者(延べ)477名 ○各種スポーツ大会の開催 市民グラウンドゴルフ大会、白石市ふるさと球技大会、しろいし蔵王高原マラソン大会、市民体育大会、市民綱引き大会		
5. 事業の成果・課題等	【成果】 ニュースポーツ移動教室の開催により、スポーツが苦手な子どもたちにとっても気軽に身体を動かすことの楽しさを知ってもらい良い機会となった。また、高齢者にとっても無理なく気軽に楽しむことができるスポーツであることから、事業目的である参加者相互のコミュニケーション及び体力づくりに資することが出来たと思われる。 【課題】 少子高齢化時代となり、スポーツをする子どもの数が減少、スポーツ少年団(チーム)の存続も危ぶまれてきている。この「ニュースポーツ移動教室」をきっかけとして多くの子どもたちにスポーツに対する興味を持ってもらうため、引き続き学校体育と連携して取り組んでいきたい。また、地域にとっても、コミュニティづくりの一環として、また健康寿命の延伸・医療費の抑制という効果も期待できることから、引き続き地区公民館や社会福祉協議会と連携してニュースポーツの普及促進に努めていきたい。さらに、ニュースポーツを継続して取り組める場所を含めた環境の整備を図っていきたい。併せて、グラウンド・ゴルフ場の利用促進を図っていきたい。		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	・ニュースポーツ移動教室、各種スポーツ大会等、様々な取り組みが行われ、生涯にわたるスポーツ活動の推進だけではなく、参加者相互のコミュニケーションを図ることができたのではないかな。この取組は、地域活性化に大きくつながっていくものと思うので、今後ともよろしく願いたい。 ・子どもから高齢者の方まで、幅広い年代に対して様々な取組がなされていると感じた。少子高齢化が進行する中ではあるが、市民のため引き続きよろしく願いたい。		

		事業番号 3-4	
基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課総務係
事業名	中央公民館利用事業(貸館業務)		
重点施策 (白石市の教育より)	社会教育推進体制の充実 2-(1)-①		
事業の目的・目標	市民の自主的、主体的な学習活動の推進に努める。		
1. 令和6年度予算額	千円	2. 令和5年度決算額	千円
3. 令和6年度の 事業内容	中央公民館が地域の活動拠点として活発に利用されるよう各種団体と地域社会がもつ教育機能の有機的な連携を図り、学習機会や学習情報等の提供を行う。		
4. 事業の実績	●利用回数: (R5)1,897回 (R6)2,124回 ●利用人数: (R5)29,889人(うち 主催事業 1,590人、社会教育関係団体 16,997人、その他 11,302人) (R6)36,459人(うち 主催事業 2,019人、社会教育関係団体 17,604人、その他 16,836人)		
5. 事業の成果・ 課題等	【成果】 新型コロナウイルス感染症による行動制限などが行われなくなり、サークル活動や講座が平常どおりに行われるようになったことなどから、中央公民館の利用回数は対前年度比227回増(+12.0%)、利用人数は対前年度比6,570人増(+22.0%)となった。 【課題】 生涯学習事業の推進や地域学習資源の発掘、活用の仕組みづくりを推進するとともに、引き続き、利用者のニーズに合わせた支援を充実させ、中央公民館の利用促進に努めていく。		
6. 内部評価	A	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	・新型コロナウイルス感染症による行動制限が行われなくなり、利用回数・人数も大幅に増加してきたとのことである。これから、忙しくなると思うが、引き続き、推進して欲しい。 ・評価については、数字ではっきりと示されているので妥当であると思う。また、中央公民館は白石市のシンボルの1つである。これからも引き続き、よろしくお願いいたします。		

基本事業(基本方針)	学校教育の充実	担当課	学校給食センター
事業名	学校給食運営事業		
重点施策 (白石市の教育より)	学校給食の充実と食育の推進		
事業の目的・目標	学校給食を通して食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけさせる。		
1. 令和6年度予算額	275,488千円	2. 令和5年度決算額	289,868千円
3. 令和6年度の事業内容	・学校給食の充実を図り、安全で安心な給食を提供する。 ・市内小中学校において、食に関する指導を実施する。 ・学校給食残食調査を実施する。		
4. 事業の実績	・児童・生徒が正しい食事のあり方や望ましい食生活を身に付け、自らの健康管理ができるように「給食一口メモ」や「給食図鑑」の給食指導資料を提供し支援した。 ・児童・生徒の給食の摂取状況を把握し、今後の献立作成や給食指導の参考資料にするため学校給食残食調査を実施した。		
5. 事業の成果・課題等	【成果】 ・「給食一口メモ」は、給食の時間に校内放送で読み上げお知らせしたり、担任が給食時に説明をしている。 ・「給食図鑑」は、配膳場所等に掲示し、児童生徒がいつでも見られるようにしている。 ・アレルギー対応食の給食を提供しているが、誤食の事故はなかった。 小学校： 1,247名 233,359食 (うちアレルギー対応食6名 1,131食) 中学校： 706名 128,615食 (うちアレルギー対応食3名 537食) 幼稚園： 21名 2,683食 ・残食調査による残食率[市内平均] ※()内は前年度の数値 小学校： 主食6.7%、主菜20.7%、副菜30.1%、食缶(汁物)11.9%、牛乳0.8% (9.5% 14.5% 17.9% 10.6% 0.0%) 中学校： 主食5.6%、主菜14.5%、副菜27.3%、食缶(汁物)12.1%、牛乳2.3% (13.2% 9.4% 21.0% 12.6% 2.0%) 【課題】 残食調査の結果から、主食は減少しているものの、主菜、副菜の残食率が増加傾向にあった。児童生徒が苦手意識を持つ食材については、調理方法や味付け、食事の組み合わせを工夫し、食べる量を増やして、成長に必要な栄養素を適切に摂取させることが肝要であると感じている。学校全体での取り組みのほか、家庭への働き掛けなど連携を深めていきたい。		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	・アレルギーを持つ児童生徒に対してもアレルギー対応食として給食を提供していることは、学級の中で級友と一緒に食事ができる楽しみの機会を得ることができ、ありがたいことだと感じている。また、アレルギー対応食の誤食がないなど、安全・安心な給食を提供していただいていることが分かった。これからも引き続き、全ての児童生徒に対して安全・安心な給食の提供をお願いしたい。 ・給食の時間は学校生活において、非常に大切な時間である。給食は、子どもたちが食べたいものだけ食べさせる訳にはいかない。食育の観点からも考えなければならず、大変な面もあると思うが引き続きよろしくをお願いしたい。		

基本事業	社会教育の充実	担当課	図書館
事業名	図書館等利活用事業		
重点施策 (白石市の教育より)	読書活動の推進(1-(5))・図書館サービスの充実(4)		
事業の目的・目標	乳幼児から高齢者まで、すべての市民の生涯学習の場として資料や情報を収集、提供し「市民の役に立つ図書館」の実現に努める。		
1. 令和6年度予算額	41,822千円	2. 令和5年度決算額	31,084千円
3. 令和6年度の 事業内容	○各分野の資料を収集、提供するとともに、利用者の視点に立った書架の整備を進めることで、市民の生涯学習活動を支援した。 ○インターネット技術を活用した電子図書館や予約サービスを提供し、利用者の利便性の向上を図った。 ○移動図書館車「こまくさ号」を運行し、学校と地域の読書活動を支援した。 ○図書館ボランティアの活動を推進し、市民協働による図書館環境の向上を図った。 ○白石市制施行70周年、図書館創立110周年、図書館建設50周年を記念したイベントを実施し、図書館活動の更なる周知を図った。 ○中学生・高校生の利用者の増を目的とした活動を行った。		
4. 事業の実績	慣例的な事業のほか、白石市制施行70周年、図書館創立110周年、図書館建設50周年を記念した「図書館まつり」を開催。白石市出身のイラストレーターで絵本作家の「砂糖ゆき」さんによる正面看板の作成のほかトークショーを開催し、本や絵本の制作に携わる方の話を聞くことで図書への関心を高めることができた。なお、普段は小学生を対象としている図書館体験のイベントを「大人の図書館体験隊」として大人向けに実施。通常の利用では接することがない図書館事業を紹介することで図書館活動への理解を深めることができた。 また、中学生・高校生の利用者に向けた「ティーンズコーナー」を設置。新たな本棚を設けるとともにその年代向けの資料を集め、利便性の向上を図ることができた。		
5. 事業の成果・ 課題等	【成果】 課題となっていた中学生・高校生の利用者の増に向けた取り組みを形にすることができた。また、慣例的な事業の実施だけでは十分に行うことができない図書館活動に対する理解促進について周年事業によるイベントを通して行うことができ、今後の図書館の利活用の向上が期待できるものとなった。 【課題】 中高生の利便性を高めるために新たに設置した「ティーンズコーナー」について、市内中学校・高校にチラシやポスターを配付して周知したものの、利用実績は横ばいであり十分な利用者向上には繋がらなかった。今後の利用者増に向けて各学校とさらに連携し、中高生の図書館に対する理解を深めていく必要がある。また、高校図書館との連携も十分に行うことができておらず、こちらも両学校の学校司書の協力を得ながら進めていく必要がある。		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	・中高生の利用者増加のために「ティーンズコーナー」を設置するなど、新たな取組が行われていることはすばらしいことであると同時に活字離れが進んでいる状況で積極的な取組が必要な時代になってきたと感じている。中学校には図書室を日常的に開放できるための司書がいないため、司書教諭と委員会活動が中心となり図書室の開放が行われている。であるからこそ、図書館を含めて、積極的な取組が必要であると感じている。 ・図書館を訪問してみると、「新刊」や「ティーンズコーナー」など様々な取組がなされていることが分かる。市民生活に根差した施設であると感じた。取組を様々なところでアピールしていただきたい。		

事業番号 5-2

基本事業	社会教育の充実・教育環境の整備	担当課	図書館
事業名	図書館文化事業		
重点施策 (白石市の教育より)	読書活動の推進(1-(5))・図書館サービスの充実(4)		
事業の目的・目標	幼少期から本に親しむことにより、豊かな心、たくましく生きる力をはぐくみ、成長とともに得られる文化意識の基礎の充実を図る。		
1. 令和6年度予算額	— 千円	2. 令和5年度決算額	— 千円
3. 令和6年度の 事業内容	○おはなしひろば アテネ絵本コーナーにおいて、読み聞かせボランティアの協力により絵本、紙芝居の読み聞かせを行い、子ども読書活動の推進を図る。 ○えほんであそぼう アテネ絵本コーナーにおいて、読み聞かせボランティアの協力による絵本の読み聞かせとともに、絵本を使った様々な「あそび」を実施するイベントを開催し、幅広い年代に向けて読書活動の推進を図る。 ○出前読み聞かせ・ブックトーク 保育園、幼稚園及び小学校において、読み聞かせボランティアの協力により読み聞かせ及びブックトーク(あるテーマを立てて子どもたちに何冊かの本を順に紹介し、紹介した本や読書への興味を持たせる活動)を実施し、子どもの読書意欲を高める活動を行う。		
4. 事業の実績	○おはなしひろば 開催回数:17回 参加人数:大人 38人 子ども 166人 ○えほんであそぼう 開催回数:5回 参加人数:大人 18人 子ども 9人 ○出前読み聞かせ・ブックトーク 開催回数:52回(9か所) 参加人数:大人 145人 子ども 1,056人		
5. 事業の成果・ 課題等	【成果】 「えほんであそぼう」では、これまで小学生を対象とした絵本の内容に沿った折り紙を折る遊びなどを行ってきたが、令和6年度の事業からは、大人向けの絵本セラピーや0・1・2歳児を対象にしたイベントを開催。より幅広い年代に絵本の面白さ・本に触れる楽しさを広めることができた。 【課題】 読み聞かせボランティアの登録者が固定化し高齢化が進んでおり、また「ブックトーク」を行うことができるボランティアも少人数であることから、新たなボランティアの獲得と育成を行う取り組みを実施していく必要がある。		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	・幼少期から本に親しむことは大切なことである。幼児期から本に親しむことが途切れることなく行われていくようになって欲しい。大切な事業であると思うので、課題もあると思うが頑張っていたきたい。 ・幼少期から本に触れることがなぜ大切なのかは、読書をすると様々な言葉や表現に触れることとなる。そのことにより語彙が豊かになり、さらに人とのコミュニケーション能力が育っていくということにある。小さい頃からの取組が大切だと思うので、引き続きよろしく願いたい。		

事業番号 6

基本事業	幼児教育・保育の充実	担当課	こども未来課
事業名	預かり保育・延長保育事業		
重点施策 (白石市の教育より)	幼児教育・保育の充実		
事業の目的・目標	園児の心身の健全な発達を図るとともに保護者の子育てを支援する。		
1. 令和6年度予算額	5,095千円	2. 令和5年度決算額	5,001千円
3. 令和6年度の 事業内容	幼稚園において、幼稚園の教育課程に係る教育時間の終了後に希望する園児を対象に教育活動として預かり保育事業を実施した。また、保育園において、保護者の就労形態の多様化に対応するため、保育標準時間(フルタイム就労)・保育短時間(パートタイム就労)利用者に対し、延長保育事業を実施した。		
4. 事業の実績	【預かり保育事業】 実施場所: 第二幼稚園 実施時間: (半日利用) 午後1:30～午後6:00 (1日利用※) 午前8:30～午後6:00 延べ利用人数: (半日利用) 112人 (1日利用※) 15人 延べ利用日数: (半日利用) 957日 (1日利用※) 37日 ※1日利用は長期休業日(夏・冬・春休み)の利用をいう。 【延長保育事業】 ○保育標準時間: 5園(はるかぜ・あそびの森・みのり・南・北)において、午後7:00まで実施。延べ利用人数: はるかぜ保、1,326人、あそびの森1,194人、みのり保1,136人、南保25人、北保149人 合計3,830人 ○保育短時間: 8園(はるかぜ・あそびの森・みのり・公立保5園)において朝・夕時間に実施 〈私立園〉 ・午前7:00～午前8:30まで 延べ利用人数: はるかぜ保43人、あそびの森10人、みのり保42人 合計95人 ・午後4:30～午後6:00 延べ利用人数: はるかぜ保30人、あそびの森80人、みのり保38人 合計148人 〈公立園〉 ・午前7:30～午前8:30 延べ利用人数: 南保40人、北保20人、越河保6人、大鷹沢保8人、白川保0人 合計74人 ・午後4:30～午後6:30(越河・大鷹沢・白川は午後6:00まで) 延べ利用人数: 南保285人、北保8人、越河保8人、大鷹沢保4人、白川保1人 合計306人		
5. 事業の成果・ 課題等	【成果】 預かり保育事業は平成31年度から実施しており、長期休業日においても一定の利用者がいる状況である。また、延長保育事業については、多様化する保護者の就労や家庭環境の状況から、保育短時間認定の利用者にも一定の需要があり、預かり保育事業、延長保育事業をそれぞれ実施することで、保護者の子育て支援に繋がっていると考え。 【課題】 幼児期は人格形成の基礎を培う重要な時期であるとともに、友達との関わりにより社会性の基礎を養う大切な時期である。少子化にあって集団活動を確保しつつ、保護者が安心して子育てができる環境を構築していく必要がある。 令和6年9月に策定した「白石市幼児教育・保育のあり方に関する基本方針」では、創設する公立認定こども園において、開園時間を午前7:30～午後7:00までとしていることから、引き続き保護者の就労と子育ての両立を支援しつつ、幼児教育・保育の充実を図っていききたい。		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	・保護者の就労と子育ての両立を支援する幼児教育・保育の充実を図る視点は大切なことである。延長保育・預かり保育だけではなくこれからのいろいろな支援が必要になるだろうと想定されるが、出てきた課題を常に検討していただきたい。 ・本事業が事業化されていないとしたら、大変な状況になる。なくてはならない事業であると感じるとともに利用者も多いのではないかと。保育時間の延長や休日の保育でご負担がかかっている方もいるかと思うが、引き続きよろしくお願ひしたい。		